

あ と が き

自然の大きな力の前には「人間の存在」の小ささを感じさせられる想いです。地震後3度目の冬は暖冬で雪が少なく、夏の水不足を心配させます。地震直後の2回の冬は、10数年ぶりの豪雪が続いて被災地を襲い倒壊57棟（'05年2月3日現在）を数えました。地震で痛めつけられた家屋が一晩で1～2メートルも降り積もる雪に耐えられなかったのです。

私たちは中越地震で多くのものを失いました。しかしその中から、大切なものを得たことも事実です。学校避難所の改善についての具体的提言のいくつかは、実行に移されてきました。「人間の絆」の大切さとともに、子どもたちを大きく成長させた地震災害。私たちは、教育機関の役目と大人の責務として、子どもたちをもっと自主的・自覚的に成長させる道筋があるのではないかと。その糸口についても触れています。災害にあった子どもたちの発達と障害の道筋について、今後の検討や検証がもっと必要ではないでしょうか。本特集では、多くの感動的で教訓となる実際の出来事にまでは触れた記述はできませんでしたが「人間は、やっぱりすばらしい」と誇りに思うのです。

地震の課題は、仮設住宅入居者の減少によって解決されてはいません。集落に住民が戻り、普通の生活、コミュニティが回復するまでは本格的な復興とはなりません。その人間を生かすための施設や制度の改善は「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の精神で、早急に共同の力で国や自治体の行政も含めて解決にあたるべき課題だと実感しました。「一人ひとり」も「みんな」もしっかりしなければ生きられないことを痛感しました。

震災対策は阪神・淡路大震災以来さまざまな面で改善が進みましたが、個人の住んでいる住宅や宅地の再建や、商・工業者の受けた痛手からの回復、農地や養鯉池・用水路・農道などの復旧などにはまだまだ多くの課題が残っています。

会員の安くはない会費や寄付金だけで成り立つ研究所に、ボランティアで集ま

る所員の力量には自ずと限界もありました。「避難所となった学校からの発信(素案)」（'06年10月16日発行）を協力いただいた皆さまにお送りしてから5ヶ月が過ぎました。

この特集は、所員の熱意とまえがきに触れた各教育事務所・委員会のご協力を基盤に、各学校で具体的にアンケートにお答えくださった先生方、真摯に感想を記述してくれた子どもたち、実際に救援に走り回ったボランティアや自治体の議員さん、復旧の中での被災者など取材に応じてくださった多くの皆さんとの合作です。本来、個人名を挙げて謝辞を申し上げなければならないのですが、お許してください。本当にありがとうございました。

調べるほどに、多くの究明しなければならない課題や資料に直面しました。貴重な経験を伝える「問題提起・途中経過の報告」として、これからも、読者の皆さんからのご感想・意見やご批判をいただき、次の研究に続けたいと思います。

【協力（資料提供）いただいた教育機関名】

中越教育事務所・長岡市教育委員会・小千谷市教育委員会・川口町教育委員会

【訪問・依頼した長岡市内の市立学校】(学番順) 坂之上小学校、川崎小学校、四郎丸小学校、富曽亀小学校、黒条小学校、新組小学校、桂小学校、浦瀬小学校、柿小学校、栖吉小学校、前川小学校、宮内小学校、上組小学校、石坂小学校、太田小学校（仮校舎）、六日市小学校、山谷沢小学校、十日町小学校、豊田小学校、川崎東小学校、山古志小学校（仮校舎）、栖吉中学校、宮内中学校、東北中学校、堤岡中学校、山本中学校（仮校舎）、岡南中学校、太田中学校（仮校舎）、旭岡中学校、山古志中学校（仮校舎）

【・訪問・依頼した小千谷市内の市立学校】(学番順) 小千谷小学校、東小千谷小学校、池ヶ原小学校、塩殿小学校、吉谷小学校、山谷小学校（仮校舎）、千田小学校、和泉小学校、川井小学校、東山小学校（仮校舎）、岩沢小学校、真人小学校、片貝小学校、小千谷中学校、東小千谷中学校、千田中学校、南中学校、片貝中学校

【・訪問・依頼した川口町内の町立学校】(学番順) 泉水小学校、川口小学校、田麦山小学校、川口中学校

以上の他にもたくさんの機関や団体、個人の方々のお世話になりました。